

主な出来事

【内政】

●11月15日、2024年国家予算案が、与党 MPLA による賛成票 111 票、野党 UNITA による反対票 74 票、棄権票 0 で国会にて採決された。

●11月16日、アンゴラ議会は、一般家庭における購買力の回復を念頭に、付加価値税法改正法案を承認。この結果、広く一般に消費される 20 種類の食料品を対象に、2024 年より、現行の 14% から 5%まで引き下げられることが決定した。

【外交】

●11月22日、アンゴラ政府、UNESCO、AU のイニシアチブの下、第 3 回ルアンダ・ビエンナーレが開幕した。

●11月24日、鈴木駐アンゴラ大使は、モシコ州で実施された草の根・人間の安全保障無償資金協力供与式に出席した。

●11月30日、ホワイトハウスにて、アンゴラ・米首脳会談が実施された。ロウレンソ大統領とバイデン大統領の間での公式会談は今回が初めて。

【経済】

●11月10日、ルアンダ新国際空港(アントニオ・アゴスティーニョ・ネット国際空港、AIAAN)が開港。開港式典にはロウレンソ大統領ほか、関係閣僚、外交団、同空港建設関係者が参席した。

●11月27日、ロウレンソ大統領はルンダ・スル州のダイヤモンド・プロジェクト・サイト(ルエレ地区)を視察した。

* 本月報は当地主要紙 Jornal de Angola 紙を中心に、月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです。

内政

1. 運輸省空運・海運・港湾担当副大臣の交代

11月11日、ロウレンソ大統領は、エミリオ・ヴンパ・デ・アンドレ・ロンダ運輸省空運・海運・港湾担当副大臣を解任し、後任にルイ・パウロ・デ・アンドラーデ・テレス・カレイラ氏を任命した。カレイラ新副大臣はこれまで TAAG アンゴラ航空で様々な要職に就いてきた経験を買われての就任となった。

2. 2024 年国家予算案の採択

11月15日、2024年国家予算案が、与党 MPLA による賛成票 111 票、野党 UNITA による反対票

74 票、棄権票 0 で国会にて採決された。MPLA に所属するイダリナ・ヴァレンテ議員は、本予算案は、困難な状況のもと、家族、企業、持続可能な財政、経済に目を向けたもので、人に特化した法案であると述べた一方、野党 MPLA は、本法案の持続可能性につき疑問を呈し、税収が限られている状況で本予算を成立させるのは困難があるとした。また、野党 PHA 党は、採択で賛成票を投じたものの、社会格差の是正に焦点を当てるべきであると主張した。

3. 一部消費財の付加価値税(VAT)引き下げ

11月16日、アンゴラ議会は、一般家庭における購買力の回復を念頭に、賛成106票、反対0票、棄権71票を以て付加価値税法改正法案を承認。この結果、広く一般に消費される20種類の食料品(パン類、(国内で屠殺された)肉類、卵、豆類等)にかかる付加価値税が、2024年より、現行の14%から5%まで引き下げられることが決定した。

4. 最高裁による「コペリパ将軍」召喚

アンゴラ最高裁判所のナザレ・パスコアル判事の指揮により、ドス・サントス前大統領政権の軍部トップであったマヌエル・ディアス元大統領府武官長 通称「コペリパ」将軍とレオポルディーノ・ナシメント元軍事司令官を召喚し、中国企業との関連性につき事情聴取を実施した。コペリパ将軍は、横領、詐欺、文書偽造、犯罪結社、権力乱用、マネーロンダリング等の罪で起訴されている。また、かつて存在した国家再建局(GRN)と契約を結んでいた中国企業やアンゴラ企業、具体的には、ESA、アンゴディス、パン・チャイナ、チャイナ・タイシジュ・シビル・エンジニアリング・グループ(CTCE)等への尋問の可能性も示唆している。

5. 中国人5名の拘留

ルアンダ郊外キランバ市にて認可を得ていないプラスチック工場に対する匿名の告発があった。同工場は22名の全従業員中、5名が外国人労働者であり、安全上の基準を満たさない形で操業を行っていた。犯罪捜査局(SIC)が同告発により、捜査を行った際、7,000,000 クワンザの賄賂をSIC職員に渡した罪で、5名の中国人労働者が拘留される運びとなった。

6. ロウレンソ大統領のルンダ・スル州訪問

11月27日、ロウレンソ大統領は、ルンダ・スル州にあるルエレ・ダイヤモンド鉱山の落成式に出席。同鉱山では、2026年までに合計860万カラット、長期的には今後15年間に亘り1億3,500万カ

ラットの採掘を目指している。また、ダニエル・フェリックス・ネト/ルンダ・スル州知事より、同州の現状につき説明を受け、保健分野及び教育分野でのプロジェクト増強につき陳情がなされた。

外交

1. 南部アフリカ開発共同体(SADC)臨時首脳会議の開催

11月4日、ルアンダで開催された同会議において、コンゴ(民)の平和と安全を回復するためのSADC ミッション展開に関する「戦略的ガイドライン」が採択された。本会議は、SADC 議長国を務めるロウレンソ大統領の召集によって開催され、同日発出された首脳声明によると、各国首脳は、コンゴ(民)の永続的な平和の達成を目的に、トロイカ体制の下で、コンゴ(民)とルワンダ間の外交努力を強化するための権限をロウレンソ大統領に委任したとの由。

2. 第10回国連緊急特別総会における演説

フランシスコ・ジョゼ・ダ・クルス国連代表部アンゴラ大使は、第10回国連緊急特別総会の場において、10月7日以降続く中東における止まらぬ暴力の増加を危惧するとの立場を表明しつつ、動機や行為主体にかかわらず、あらゆる形態や様態のテロリズムを非難し、現下の中東における紛争は人びとの苦しみを悪化させ、女性や子供を含む罪のない一般市民の命を奪っていることに憂慮を示した。また、アンゴラ政府は、国連総会決議ES-10/21を支持した。

3. 当地着任新大使の信任状捧呈

11月13日、当地駐在の7名の大使及びアンゴラを兼轄する6名の大使による、ロウレンソ大統領への信任状捧呈が行われた。当地駐在は、キューバ、ベルギー、ニカラグア、エジプト、仏、ルワンダ及びEUの7名の大使。

4. 第3回ルアンダ・ビエンナーレの開幕

11月22日、アンゴラ政府、UNESCO、AUのイニシアチブの下、第3回ルアンダ・ビエンナーレが開幕した。アフリカ大陸の教育、平和文化促進を通事、持続的な発展を目指す同イベントの開幕式には、ロウレンソ大統領のほか、ファキ AUC 委員長、ネーヴェシュ／カーボベルデ大統領、ヴィラ・ノヴァ／サントメ・プリンシペ大統領のほか、元大統領級のアフリカ各国要人も出席した。

5. セルケイラ国会議長の第54回 SADC 国会議員フォーラム年次総会への出席

11月22日、モーリシャスで開催された第54回 SADC 国会議員フォーラム年次総会に出席したセルケイラ国会議長は、開会式にて、気候変動による災害を予防するための立法の必要性を強調したと共に、加盟国間の協力を呼びかけた。

6. 鈴木大使の草の根・人間の安全保障無償資金協力供与式出席

11月22日から24にかけて鈴木駐アンゴラ日本国大使はモシコ州を往訪し、エルネスト・ムアンガラ／モシコ州知事への表敬を行ったほか、令和3年度に実施した地雷分野における草の根・人間の安全保障無償資金協力「モシコ州ルエナ市地雷除去計画」の供与式に出席した。同事業は、日本政府が600,976米ドルを供与したもので、国際 NGO の活動を通じて同州ルエナ市5か所、約27万km²の土地で地雷が除去され、今後は圃場としての活用やインフラ整備が行われる予定。同州政府及び地元住民からは、今次支援に対して謝辞が述べられた。

7. ロウレンソ大統領と尹錫悦/韓国大統領との電話会談

11月24日、ロウレンソ大統領は、尹錫悦/韓国大統領と電話会談を行い、両国の友好及び協力関係強化の必要性につき協議を行った。両国の外交関係樹立は1992年1月で、政治・外交関係

のほか、電気通信、技術、エネルギー、産業、貿易面で関係を発展させている。

8. MPLA・中国共産党間の議員間交流

11月28日、当地を訪問中の中国共産党代表団はMPLA所属議員との会合を実施し、中国における貧困削減政策の経験等を中心に意見交換を行った。また、中国人民大学講師を招き、ルアンダ郊外のキランバ地区で講演会が実施され、アンジェラ・ブラガンサ MPLA 中央委員会政治局員も本公演会にて、アンゴラ・二国間の協力関係は政治分野のみならず、経済、社会、文化面にまで及んでいる旨強調した。また、Chen Feng 駐アンゴラ臨時代理大使は、議員間交流の重要性につき強調した。

9. COP28 へのアンゴラからの出席

11月30日、ドバイにて開催された COP28 閣僚会合に、アゼヴェド鉱物資源・石油・ガス大臣、ボルジェス／エネルギー・水大臣が出席。ボルジェス大臣は、アンゴラにはクリーンエネルギーへの転換を目指す国家プログラムが既に存在しており、2027年までに72%まで再生可能エネルギーに転換することを目指す旨述べた。ロウレンソ大統領は、米国での首脳会談終了後、COP28 に出席する予定。

10. ロウレンソ大統領とバイデン大統領の会談

11月30日、ホホワイトハウスにて、アンゴラ・米首脳会談が実施された。ロウレンソ大統領とバイデン大統領の間での公式会談は今回が初めて。バイデン大統領は、ロウレンソ大統領のアフリカ大陸における平和と安定の取り組みを賞賛すると共に、アンゴラの戦略的重要性につき強調した。また、ロウレンソ大統領からは、バイデン大統領のアンゴラ訪問を要請したとともに、約1時間の会談後、報道陣に対し、今般会談は期待以上のものであり、両国関係は極めて深化している旨述べた。

経済

1. 綿花栽培自給自足を目指すキャンペーンの開始

11月8日、ジョゼ・デ・リマ・マサーノ大統領府経済調整担当大臣は、アンゴラ繊維衣料産業協会(AITEGA)との会合及び Textang II 社の視察を行い、2027年までに綿花栽培の自給自足を達成すべく、2年以内に綿花の栽培拡大を目指すキャンペーンを実施する旨を発表した。

2. ルアンダ新国際空港開港

11月10日、ロウレンソ大統領は、ルアンダ州イコロ・イ・ベンゴ市ボン・ジーザス地区に建設されたルアンダ新国際空港(アントニオ・アゴスティーニョ・ネト国際空港、AIAAN)の開港式に出席。新空港は、1,324ヘクタールの敷地に建設され、年間旅客数1,500万人到達、アフリカ第3位の空港になることを目指す。長さ4,000メートル、幅60メートルの2本の平行滑走路に加え、31の搭乗ブリッジ、合計50の出入国カウンター等を備える。

まず貨物便の運航を開始し、2024年第1四半期に国内線、同年第3四半期に国際線の運航を開始する予定。

また、同式典に出席したリカルド・デ・アブレウ運輸大臣は、新空港管理のための一般競争入札による国際入札がまもなく開始される旨を発表した。

3. AVIC 社関係者によるロウレンソ大統領表敬

11月11日、ロウレンソ大統領は大統領府にて、新空港建設工事を請け負った中国企業 AVIC 社関係者による表敬を受けた。同表敬には、ダヴェス財務大臣及びアブレウ運輸大臣も同席し、予算規模28億ドルにも及ぶ空港インフラにつき協議した模様。

4. TAAG アンゴラ航空の路線拡大戦略

11月13日、ロウレンソ大統領は、ルイ・カレイラ運輸省空運・海運・港湾担当副大臣の任命式にて、TAAG アンゴラ航空がより競争力のある国際市場に参入することを期待しており、アフリカ路線の拡充のほか、現在の欧州3路線から、北米路線、中国を視野に入れたアジア路線を開設していくことを期待すると述べた。

5. 政策金利の引き上げ

11月21日、金融政策委員会(CPM)にて、中期的なインフレ状況を勘案し、政策金利を17%から18%に引き上げることを決定した。また、限界貸付利率を17.5%、中銀預金金利18.5%に引き上げることが発表された。

(了)